



学校だより

平成 25 (2013) 年 8 月 10 日

カンタベリー日本語補習校

校長 古川 明

元気な子どもたちの声が補習校にもどってきました！

日本語補習校の2学期は、先週から始まりました。子どもたちの元気な声が、アイラム校の中庭に響きわたっています。第2学期始業式には、久しぶりに友達や先生と会うことができ、臆することなく日本語で自由に話ができる喜びの笑顔にたくさん出会いました。

始業式では、1学期の子どもたちの様子を見守りながら感じていたことを、子どもたちに語りかけました。「日本語補習校へ通ってくるのはなぜなのでしょう？」「なぜ日本語を学ぶのでしょうか？」「日本語の宿題が面倒に思うのは僕だけなのかな？」「漢字を覚えたり、作文を書いたりするのが大変なのに、補習校の先生やお父さん、お母さんはわかってきているのかな？」等々、子どもたちの疑問に答える気持ちで、下記のような主旨で話をしました。

「皆さんのお父さん、あるいはお母さんは子どものころ日本語で教育を受け、日本語を母国語として、読書や会話、文章表現を学びながら語彙を増やしてきました。そして、母国語で思考力や判断力を身につけるなかで、大人になりました。大人になってからも英語の勉強を重ね、ニュージーランドで生活をされて来ました。皆さんはお父さん、あるいはお母さんから深い愛情をそそがれ、そして手塩にかけて育てられてきました。現在、親として皆さんとともに生活をされながら、家庭での教育に努力をされていらっしゃると思います。そのため、日本の豊かな文化にふれ日本語を通して会話ができ、日本語で物事を考え、日本語で意思疎通を図りたいと思うのは、親の自然な気持ちです。」

「日本語を学ぶには、長い時間と毎日の積み重ねが必要です。中学3年生は、9年間の時間をかけて、階段を登るように一步一步努力を重ねて来ました。宿題が面倒に思うことは、幾度もあったことでしょう。しかし、諦めることなく日本語補習校に通い続けている中学3年生を見習い、日本語の勉強を、毎日(20～30分でもよいから)少しずつ取り組ん



8/3 2学期始業式



8/3 児童生徒会2学期の目標

「友達にやさしくしよう」

お知らせ① 図書の貸出について

事務所拡張工事のため、図書の貸出時間と場所が変更になっています。お子さんにもお知らせください。

- 貸出場所：ホール
- 貸出時間：(前半) 12:30～12:55
(後半) 14:55～15:10
- 貸出図書：倉庫保管中の図書の一部

でいきましょう。海外の地にあつて、日本語を学ぶ教育環境は大変厳しいですが、日本語を学び続けることで自分に大きな自信と勇気を与えてくれます。」

また、日本で外国語保持教室に通っていた卒業生が、海外子女対談で小中学生時代を振り返って、下記のように述べていることも始業式の話のなかで紹介しました。

「たとえ週1回でも続けることが大切だったんだって、いまはほんとはよくわかる。」「もしかしたら小学生や中学生の間は子ども

もは面倒がるかもしれないけど、親が行けと言えば行くから行かせてほしいということ。子ども自身はその価値に気づかないから。・・・僕はいま、通わせてくれたことを親にとっても感謝しています。」

『海外子女教育』6月号「保持教室の卒業生、思い出を語る」より

外国の地で日本語を学ぶ子どもたちは、家庭の教育環境の違いによって日本語力に差が生じています。日本語力の向上のためには、第一に日本語の勉強を諦めることなく、「補習校に通い続けること」です。補習校は、日本語を学ぶ同年齢の子どもたちと集団教育を通して、互いに学び合い、高め合いながら、時間をかけて取り組んでいます。第二は、補習校の学習内容を理解し定着させるため、保護者皆様の支援が必要です。補習校に通う意義を、お子さんに語り続けてください。そして、保護者皆様も一緒に日本語の勉強に取り組み、お子さんを認め、ほめ、励まし続けてください。そのことが、お子さんの日本語力の向上に役立ちます。

カンタベリー日本語補習校は、保護者皆様のご支援とご協力をいただきながら、子どもたちが明るく元気に日本語の学習に取り組み、心豊かで思いやりのある子どもに育ててまいります。2学期もよろしくお願ひします。

お知らせ②

補習校では、子どもたちの日本語能力向上に向けて、「漢字検定」や「日本語能力試験」に積極的に挑戦するよう勧めています。

詳しくは、後日、補習校よりお知らせいたします。

お知らせ③ 教育講演会の開催について

目的；子どもたちが海外の地にあつてハンディーを克服しながら、日本語の習得と自らのアイデンティティーの形成に向け、国際人としてたくましく生きる子どもを育てる。

日時；8月31日（土）午後1時10分～、

場所；アイラム校ホール

講師；C P I T日本語学科教職員、カンタベリー大学日本語科教職員、
廣瀬理津子氏（C P I T学生）

内容；《各大学の担当者からの話》

- ① 日本語科の学ぶ内容や特色、卒業後の進路先
- ② 「日本語を習得しておくことが進路の選択肢を広げる」ことについて
- ③ 学生の目的意識について

《廣瀬氏には体験に基づいた話》

- ① 海外子女の体験を踏まえて日本語力の維持と英語の学習について
- ② 日本の大学生生活を振り返って
- ③ また大学に入学した理由

※保護者の皆様には、万障お繰り合わせのうえ多数ご参加をお願い申し上げます。